

特集:寄生虫から生態系を見る

寄生虫を「生きた指標」として魚の動きを探る。

幼魚も広い範囲を生息場所として利用している。

寄生虫の多くは、一生のうちに数種類の決まった生物の間を移動する性質を持つ。

その性質を利用して、寄生虫の存在から、生物どうしのつながりや移動範囲を明らかにすることができる。

寄生虫を指標として魚類の移動を調べたところ、

幼魚のうちから長距離を移動し、広い範囲を生息場所としていることが明らかになった。

寄生虫は、生物の生態に関して多くの情報を提供する簡便な「生物タグ」である。

寄生虫は生物の移動を指標する(高橋吸虫の例)

